

第2学年4組 社会科学習指導案

平成26年 3月12日(水) 第2時限 2年4組教室 指導者 杉山 彩

1 単元名 「身近な地域の調査」～岩津中学区開発最前線～(15時間完了) 本時 11/15

(1) 構 想

本学級では『中部地方』を学習した際に、「中京工業地帯でさかんな工業」についての主題図から自動車の生産がさかんになった理由を読み取る授業を行った。すると、どの生徒も意欲的に主題図を読み込み「西三河南部に自動車部品工場が多い。」など主題図にかかれていることを正確に読み取ることができた。しかし、主題図から読み取った情報を関連づけて自動車の生産がさかんになった理由を考える場面になると匙を投げる生徒が半分を占めた。このように本学級は思考力がやや弱く、その結果、話し合い活動になると一部の生徒の発言から一方的な考えに偏りやすい傾向にある。しかしながら、一問一答式の質問だと積極的に挙手を行い、発言できることから、根拠をより明確にして意見に自信を持つことで話し合い活動に深まりが出るのではないかと考える。そのため、本単元では学習課題に対する生徒自身の意見をまとめる時間を十分設定していきたい。

本単元は、自分たちの住んでいる地域を題材として取り上げる。中学の地理的分野では生徒たちが行ったことも見たこともない地域を題材となることが多い中、一番、身近で切実な問題や変化を感じることができる単元である。地図や統計資料の読み取りだけではなく実際に現場を見たり、関係者の人に話を聞いたりすることで意欲向上にもつながると考える。そして聞き取り調査では開発を行う利点や課題に気づく機会に恵まれるため、課題を追究するにあたり地図や統計情報の関連付けもしやすく、より説得力のある考えを導き出しやすいと考えることができる。

岩津中学区は西部の標高が低く平らな土地に住宅や商店が立ち並んでいる。そして、東名高速道路を挟んで東部は傾斜が急で森林が目立ち、住宅は恵田川沿いやライクタウン花園地区に集中している。発展している場所と発展しにくい場所を分けているのは、市の市街化区域指定である。現在、岩津中学区で最も開発が進んでいる場所は北西部(国道248号線沿い)だが、ここは近年、新たな市街化区域に指定された場所であり、市の都市計画のなかでも重点区域に指定されている。そのため現在、交差点新設工事が行われており、工事完了後、田畑になっている場所に大型店が着工することになっている。市では、この大型店に人口増加が著しい北部地域の商業拠点としての役割を期待している。一方で、住民の中には買い物が便利になる、雇用が期待できるという声とともに、交通渋滞が悪化する、治安が悪くなる、商店街が更に停滞すると考えている人々もいる。

本単元では、まず岩津中学区の人々がなぜ学区外で買い物をするのか意見を出し合い、地形図に利用店舗とそのルートを記入させることで、いかに自分たちが遠くまで買い物に行っているのか気づかせる。そして、意図的に大型店建設予定地を提示し、施設が完成した時の交通の利便さに興味を持たせるとともに、なぜ国道248号線沿いに建設されるのか疑問を持たせたい。そこで、疑問を解決するために航空写真を使って、岩津中学区の移り変わりについて調べる機会を設定する。すると、昭和40年過ぎから徐々に南西から住宅や商店が建設されていることに気づくことができる。そして、市の職員の方から、市街化区域の話をしていただくことで、恵田学区にはなぜ大型店ができないのかという疑問を解決できると推測される。そして実際に現地フィールドワークに行くことで、建設予定地が広大な平地であること、国道248号線とバス通りの交通量の多さを感じつつ、商店街の店舗が少なくなってきたことを実感させたい。その後、大型店建設をめぐる住民の思いに迫っていく。小学校区・年齢ごとに大型店建設に対する聞き取りを家族や近所の人に行う。すると、小学校区や年齢ごとに関心の度合いが違ったり、危惧している問題が変わったりすると考える。しかしフィールドワークと聞き取り調査を通して、今回の建設を一番危惧しているのは商店街の人ではないかという意見が生徒から出てくると思われる。そこで、商店街の方に聞き取り調査を行った情報を基に今回の建設についての思いを理解する。そして、大型店と商店街が共存できる方法を本時に考えていきたい。その後、単元の最後にもう一度市役所の方をお招きし、生徒が考えた大型店と商店街が共存できる方法を提案する場を設ける。

本単元を通して、生徒たちには資料を関連付けながら考えを深めることができるようになるとともに、自分たちも岩津中学区の住民であるということを意識し、現状を認識するとともに、課題を解決するために行動する大切さにも気づいてほしいと願っている。

(2) 単元の目標

- ・大型店ができる原因やその影響を捉える調査に意欲を持って取り組み、話し合い活動に積極的に参加することができる。
(関心・意欲・態度)
- ・資料やインタビューからの情報を関連付け、大型店建設についての現状と課題を多面的・多角的に考察し、よりよい将来の岩津中学区の姿を考えることができる。
(思考・判断・表現)
- ・地形図や写真、グラフや統計資料及びインタビューから、岩津中学区の商業の特色及び課題を読み取ることができる。
(資料活用の技能)
- ・調査を通して読図、聞き取り調査、文献調査などの地域調査の方法を理解することができる。
(知識・理解)

(3) 指導計画

<関心・意欲・態度> ・岩津中学区の様子や変化について関心が薄い子供。	<思考・判断・表現> ・地理的事象に対して画一的な見方に偏り、考えが深まらない子供。	<技能> ・写真や地形図等の資料から読み取った情報をそのまま全て活用しようとする子供	<知識・理解> ・課題に対して効果的な調査方法が浮かばない子供。
---	--	--	--

私達はどこによく買い物に行くのだろうか ②

- ・店が大きいから。・品数が豊富だから。・食料品や衣料品が一度に手に入るから。
- ・自分の家から結構距離がある。・車は便利だけど自転車はきついよね。
- ・家から近くなるね。・橋を渡らなくてすむから助かるね。
- ・また国道 248 号線沿いにはできるんだね。・やっぱり恵田小学区にはできないんだ。

なぜ大型店がこの場所にできるのだろうか。 ⑥

- 仮説と調査方法を考える
 - ・ 248 号線が近くにあるから交通量が多い。・人口が増えてきたから
 - ・ 広い土地があったから。・高齢者の方が増えてきたから。
- 航空写真と人口統計資料から岩津中学区の移り変わりについて調べる
 - ・ 岩中学区は西部に住宅が多いね。・南西の方から徐々に建物が増えているよ。
 - ・ 航空写真を順番に見ていくと、確かに次に建物ができそうなのは建設予定地だね。
- 市役所の方にインタビューをする
 - ・ 今度の建設予定地は、新しく市街化区域に指定された場所なんだね。
 - ・ 新香山中学区、岩津中学区には人口が増えているのに大型店がないから、ここにはできるんだね。
- フィールドワークに出る
 - ・ 交通量の多い国道 248 号線沿いでバス停も近いから、たくさんお客さんがやってきそうだね。
 - ・ お店を作るために、交差点や道路を新設しているのかな。
 - ・ この場所に来る途中に通った商店街は商店が少ないから、この商業施設は人気が出そう。

大型店ができることを住民はどのように思っているのだろうか ③

- 岩津中生、岩津小学区、恵田小学区、大樹寺小学区の人に聞き取り調査
 - ・ 岩中生へのアンケートだと、大型店舗ができることをほとんどの人が賛成しているよ。
 - ・ 僕は、大樹寺小学区だけど、学区に大型店があるから新しい店が充実していたら使ってみたって家族が言っていたよ。
 - ・ 岩津小学区には商店街があるから、その人たちは困るんじゃないのかな。
 - ・ 商店街の人はお客さんが大型店に移らないか心配していたよ。
 - ・ 魚屋さんは専門分野で勝負をしているから、影響はあまりないのではと言っていたよ。
- 大型店と商店街が共存することができるか
 - ・ 魚屋さんの強気の発言があると共存できそうな気がする。
 - ・ スーパーは高齢者からの要望らしいので、商店街のお客さんは減るのでは。

大型店と商店街が共存できる方法には何があるだろうか ④ (本時)

- ・ なごみが商店街の共有駐車場にならないかな。・バスの路線を増やせないかな。
- ・ 歩行者の安全を守るために歩道が設置できないかな。
- 学級で考えた方法を市役所の人に提案してみよう

大型商店の設置を歓迎しつつも商店街を残していけるような学区にしていくことが私達の使命でもあるよね。

<教師の支援>

- ・ 導入で、生徒たちが主にどの辺りに買い物に行くのか発問し、地形図に店舗と使う道を記入し自宅からどのくらいの距離があるのか調べさせる活動を取り入れる。
- ・ 大型店建設予定地を教師が提示する。
- ・ 岩津中学区の移り変わりが分かる航空写真や現在の土地利用図、人口統計資料を準備する。
- ・ 市役所の都市計画課の方をゲストティーチャーとしてお招きし、岩津中学区の都市計画についてお話していただく機会を設定する。
- ・ なぜ国道 248 号線に大型店が建設するのか考えるためにフィールドワークをする機会を設ける。
- ・ 商店街について意識づけするためにフィールドワークでは商店街を通して建設予定地に行くようにする。

- ・ 開発に賛成の人の意見だけではなく、開発に不安を持っている人の思いを知るために中学生、家族に聞き取り調査を行う。
- ・ 調査結果を共有する際、小学校区ごとに板書を分け、岩中学区の中にも様々な思いがあることを視覚で分かるように工夫する。
- ・ 商店街で店を経営している方に聞き取り調査を行い、商店街の将来像について発問する。
- ・ 商店街を残すことに重視する方法だけではなく、多くの人が有益になる方法を目指すように意識付けをする。
- ・ 市役所の方に学級の生徒が考えた共存方法についてアドバイスをいただく機会を設ける。

<関心・意欲・態度> ・岩津中学区の将来に対して期待と不安を持ちつつも、社会に参画しようとする子供。	<思考・判断・表現> ・地理的事象を多角的・多面的に考察し、公正に判断できる子供。	<技能> ・写真や地形図等の資料から読み取った幾つかの情報を取捨選択し、関連付けながら活用する子供	<知識・理解> ・課題に対して効果的な調査方法を理解し、選択できる子供。
--	---	---	--

2 本時の学習指導

(1) 目 標

- ① 大型店の建設に関する調査結果を基に大型店と商店街が共存できる方法を考え、話し合い活動に積極的に参加することができる。
- ② 話し合い活動で出た仲間の意見をふまえて大型店と商店街が共存できる方法を再構築し、自分たちで市役所の方に提案しようと思えることができる。

(2) 展 開

	生徒の活動	教師の活動
問題 (1)	1 本時の課題をつかむ。 大型店と商店街が共存できる方法には何があるだろうか	・ 本時の学習課題を板書する。
展 開 (35)	2 課題について話し合う。 ○ 商店街に駐車場を設置する ・ なごみんが商店街の共有駐車場にならないだろうか。 ↓ ・ フィールドワークの時も、すごい台数の車が止まっていたから難しいのでは。 ・ 商店街の人だけが得をするようでは、納得してもらえないよね。 ・ あぶらやさんの前の土地のように更地になっているところが増えれば、そこが共有駐車場になる可能性もあるよね。 ○ バス通りに歩道を設置する ・ 商店街～大型店まで続くバス通りは白線が引いてあるけどとても狭いから、歩道と車道のブロックを置くだけでも違うと思う。 ・ 商店街の人は客層は40代以上の方が多いと言っていたし、スーパーは高齢者の方からの要望だったから高齢者が住みやすいまちが必要。 ・ 歩道が広くなれば、子連れの人でも安心して歩けるね。 ○ 恵田にバス路線を作る ・ 大樹寺、岩津には大型店があるけど、恵田にはなく不便に思っている人も多いので、恵田にバス路線ができれば商店街も大型店も利用しやすくなる ↓ ・ 使う人がどのくらいによるかで、市役所の人でも路線が決まると言っていたよ。 ・ フィールドワークや家の近所を見ると、車を持っている人の方が多いのではないだろうか。 ○ お互いの良さをアピールしたパンフレットを作る ・ 魚屋さんの言っていた若い人に来てもらうためには、大型店周辺が整備されたら、岩津地区の商業に関するパンフレットを作り、中学校区に回覧板などで回す。 ・ 市の施設においてももらえると学区外からも来てもらえるのでは。 ・ パンフレットもいいけど、車の人には看板の方が効果的かも。	・ 事前に座席表に生徒の意見を落とし、調べた内容で用いた資料を準備しておく。 ・ 生徒に必ず根拠になる資料や意見を明確にして、自分の考えを述べるように促す。 ・ 生徒の意見を関係付けながら板書する。 ・ 根拠になる資料や意見を明確にし、自分の考えを発言できた生徒を称賛する。 ・ 提案された意見に対して、賛成意見だけではなく反対意見についても生徒に問いかける。 ・ 商店街が有益になるだけではなく、大型店や地域住民にも恩恵になるような意見を掘り下げる。
整理 (10)	3 話し合いから考えた自分の結論をワークシートにまとめる。	・ 他の生徒の意見を踏まえて、自分の意見をまとめている生徒を称賛する。
まとめ (4)	4 自分の考えを発表する。	・ 次時に、市役所の方をお招きし考えた方法についてアドバイスをもらうことを予告する。

(4) 評 価

- ① 調査結果を根拠として、学習課題に対する自分の考えを発言することができたか。
 —活動2の話し合い活動から
- ② 仲間の意見を関連させて、大型店と商店街の共存の方法について考えをまとめることができたか。
 —活動3のワークシートのまとめから